

競技上の注意

第88回全日本大学総合卓球選手権大会(個人の部)

審判長 伊庭 洋子

令和4年6月1日一部改訂の日本卓球ルール及び「日本学生卓球連盟事業実施細則」を適用して実施する。ただし、この大会では試合前の練習時間は1分間を適用する。

卓球競技は全てスポーツマンシップに則り、ルールを遵守し、立派なマナーのもとに、正々堂々と競技を行わなければなりません。

【競技種目】 男女ダブルス、男女シングルス

【試合形式】 全試合トーナメント方式。本大会では男女ダブルスは、全て5ゲームスマッチ。男女シングルスは、ランキング決定戦前(3回戦)まで、5ゲームスマッチ。ランキング決定戦(4回戦)以降は、7ゲームスマッチとする。

1. 卓球台、ボール、用具、服装等について

- ◎使用球は公認の「VICTAS 社・VP40+」を使用する。
各選手(組)は、「ボール選択所」で1球選び、主審に渡してください。
- ◎ラケット本体を覆うラバーは、その摩擦特性、外見、色、構造、表面等の競技性能に、物理的、化学的その他の処理による変化、修正を与える事なしに、JTAAあるいはITTFに公認された状態で使用されなければならない。なお、外国製ラケットでJTAAのマークがないもの、JTAAの刻印がないものを使用する場合、予め試合開始1時間前までに、審判長の許可(「ラケット使用許可書」が必要)を受けること。
- ◎ラバーはラケット本体より大きかったり小さかったりしないこと。
- ◎ゲーム中ラケットを破損した場合、スペアラケットかプレー領域内で手渡されたものと交換し、すぐにプレーすること。
- ◎競技服装(シャツ、ショーツ、スカート)はJTAAの公認マークの付いている物を着用すること。
- ◎同じ服装による対戦を避けるため、色、柄、の異なった2種類以上の服装を用意すること。
もし、似かよった服装でお互いが服装を代えることを同意しない場合は主審がくじ(拳)で決める。
競技用シャツ(袖・襟を除く)、ショーツまたはスカートの主たる色は使用するボールの色と明らかに違う色の服装を着用すること。
- ◎リストバンド、サポーター、ヘアバンド、スパッツにつける広告は、メーカーの商標・ロゴは1ヶ所とし、12cm²以下であること。但し、(公益財団)日本卓球協会公認用具指定業者の製品のみ認められる。
- ◎ダブルス、シングルス競技の準決勝戦から、コールエリアを設置します。タイムテーブルの20分前に試合で使用するラケットを持参ください。また、競技用服装の確認を行います。
- ◎マルチボールシステムについて

ダブルス・シングルス戦男女とも準決勝と決勝戦で実施する。競技者(組)は、コールエリアで20球ずつ選択すること。試合中はボールパーソンがボールを拾い、副審が球出しをする。

- ◎本年度の日本卓球協会指定のゼッケンを着用すること。

2. ラケットコントロールについて

- ◎ラバーをラケット本体に貼る場合、揮発性有機溶剤を含んでいないものとして JTTA が公認した接着剤のみを用いて行うものとする。
- ◎ラバーの張替えは、定められた「ラバー張替え所」で行うこと。
- ◎ラケットコントロール検査は試合前に ITTF 公認の検査機を用いて、無作為に実施する。選ばれた競技者（組）またはタイムテーブルの 20 分前までにラケットコントロール室に使用するラケットを持参して検査を受けること。試合前に提出されなかったラケット、試合中に破損して取り替えたラケットは試合後に検査を受けることになる。試合後の検査で違反と判定された場合、その競技者（組）は負けとなり相手競技者（組）の勝になる。
- ◎競技者（組）が希望すれば試合前までにラケットコントロール室にラケットを持参しラケットの自主検査を受けることができる。希望者は 10 月 20 日（木）10：00～17：00 の期間中に希望するラケットをラケットコントロール室に持参すること。

3. サービスについて

- ◎競技者の行うサービスが基本ルールの要件を満たしているかどうかを主審または副審が確信できるようにサービスを行うことは、競技者の責任であり、どちらの審判員もサービスが正規のサービスであるか否かを判定することができる。
- ◎サービス動作を開始してから打球まで、隠す動作なくレシーバーにはっきり見えるようにすること。
- ◎ボールが手のひらから離れたら、すぐにフリーアームをボールとネットとの間の空間の外に出さなくてはならない。
- ◎サービス開始時にフリーハンドの手のひらを開きその上に掴むことなく、自由に転がる状態でボールを乗せ静止させる。
- ◎ボールに回転を与えることなく、プレーイングサーフェスよりも高い位置で、しかもエンドラインの後方より、ほぼ垂直に 16 cm 以上投げ上げ、落下する途中を打たなければならない。

4. 促進ルールについて

- ◎両方の競技者または組のポイントスコアの合計が少なくとも 18 ポイント(9-9・10-8 または 8-10)に達した場合を除いて、ゲーム開始後 10 分を経過しても終了しない場合は促進ルールが適用される。また、それ以前でも双方の競技者または組の要請のあった場合には促進ルールは適用される。促進ルールが適用された場合は、そのマッチの残りのゲームは促進ルールで行われる。

5. タイムアウト制について

- ◎タイムアウトの要求は、ゲーム中のラリーとラリーの間のみでき、その際に手で「T」の字を作ってその意思を示し、1 マッチにおいて 1 分以内“タイムアウト”を 1 回要求することができる。
- ◎タイムアウト終了後、まだタイムアウトを要求していない選手または組が続けてタイムアウトを希望する場合、連続してタイムアウトを要求することができる。
- ◎個人戦の場合、競技者または組とアドバイザーの意見が異なる場合は、競技者または組の要求が優先される。

6. 抗議、アドバイスについて

- ◎主審または副審等による事実の判定に対し抗議することはできない。
- ◎個人戦において、競技者または組はそのマッチ開始前に主審に登録された一人のアドバイザーからのみアドバイスを受けることができる。
- ◎ラリー中のアドバイスは、ジェスチャーを含め、一切禁止されている。違反したものには、バッドマナーとして、退場を含めた罰則が科せられる。初はイエローカードで警告、2回目はレッドカードで競技領域外に退場させられる。

7. バッドマナーの取り扱い、ペナルティーの移動について

- ◎競技者またはアドバイザーが相手競技者に対し不当な影響を与え、観客に不快感を与え、ゲームの評判を落とすようなクセや態度（大声で叫び汚い言葉を使う、故意にボールを蹴ることや競技領域に打って出す、卓球台やフェンスを乱暴に扱う行為）や無断でラケットの交換、競技役員の指示を無視するなどが含まれる。
- ◎ポイントが決定した後は、速やかに次のサービス体勢、あるいはレシーブ体勢をとり、みだりに時間を取るようなことなく、競技のスピードアップをはかること。直ちに行動に移さないときは、「スロープレー」としてバッドマナーとして対処する。
- ◎バッドマナーに対して、初はイエローカードによる警告がなされるが、2回目以降はイエローカードとレッドカードが同時に掲示され、相手競技者に得点(1点または2点)が与えられる。
- ◎靴の裏を雑巾などで拭う場合はゲームとゲームの間にベンチ内でビニールの上に置いて使用することを認める。
- ◎競技エリア内での濡れ雑巾の使用は一切禁止とする。

8. 横幕、応援旗の提示にについて

- ◎応援用具(旗、のぼり、ボード)に記載されている内容は、参加しているチームまたは個人を応援するものに限る。なお、校旗、部旗等は自チームの試合が終了した後、速やかに撤去すること。
- ◎校旗、部旗は縦1.5m×横2m以内とし、校章、社章またはシンボルマークは中央に入れ、縦か横表示の卓球部名が入っているもの。
- ◎縦幕は原則として許可しない。また前項の旗を縦に長くして提示することはできない。

横幕、応援旗、校旗、部旗は、自チームの全選手の試合が終了した後、速やかに撤去すること。ただし、大会本部の許可を得たものは、この限りではない。
--

9. 一般的注意事項について

- ◎競技日程・組み合わせ・試合予定時間・試合コートなどを自ら確認し、コートへの入場を遅らせないでください。
- ◎進行の都合で予定コート、開始時間を変更することがありますので、放送、掲示板に注意してください。
- ◎競技場内での飲食は、禁止されています。ただし水分補給はふた付きのペットボトルとします。
- ◎本連盟主催の試合において、会場内および周辺での喫煙を全面禁止とする。このような行為に違反した場合、所属大学に連絡いたします。
- ◎盗難予防のために、試合中は自分の持ち物を知人に預けるなどして絶対に放置しないこと。万一被害にあっても一切の責任を負いません。
- ◎持ちこんだゴミ類は責任をもってお持ち帰りください。